



主な内容

- 特集——薬学部卒業生の就職動向について
- トピックス——「健康フェス2016」が行われました
- フリーページ——すこやかスポット医学講座No.71
「頭痛と漢方」

表紙写真：竣工90周年を迎えた1号館
(2016.10.6 医用画像情報センター撮影、解説はP12)

薬学部卒業生の就職動向について

キャリア支援センター

平成19年に新設された薬学部は、平成25年3月に第1期生を送り出して以来500名を超える卒業生を輩出してきました。現6年生は第5期生となります。ここでは、第4期卒業生までの進路、就職活動の現況や課題等について報告いたします。

1. 薬学部卒業生の就職・進学状況

卒業生の進路について、平成28年5月1日現在の状況を業種別【図1】および地域別【図2】に示しました。既卒国試合格者を含む433名を対象としたデータです。

業種別にみると、病院、調剤薬局にそれぞれ約4割、ドラッグストアに1割弱、各種企業（研究職、製薬企業MR職）や大学院進学に5%ほどとなっています。

地域別では、東北地区が3/4を占め、中でも、岩手県が172名（総数の4割）と最も多く、次いで宮城県が65名、秋田県が40名の順となっています。岩手県就職者のうち病院が103名、薬局が62名です。就職者数が多いのは岩手県医療局、次いで本学附属病院です。

厚生労働省の「医師・歯科医師・薬剤師調査（平成26年12月31日現在）」によると、岩手県の届出薬剤師数は2,232名（うち病院464名、薬局1,351名）ですので、ざっと見積っても岩手県内薬剤師の8%、病院薬剤師の20%を本学出身者が占めることになります。「東北の薬剤師不足の解消」を使命に掲げて発足した本学薬学部ですが、わずか4年で本学が東北、特に岩手県の薬剤師供給に極めて大きな役割を果たしてきたと言えます。今後、「ふるさと実習（出身地域（帰省先）での実習）」の地域拡大により、ますますその役割を担っていくことが期待されます。

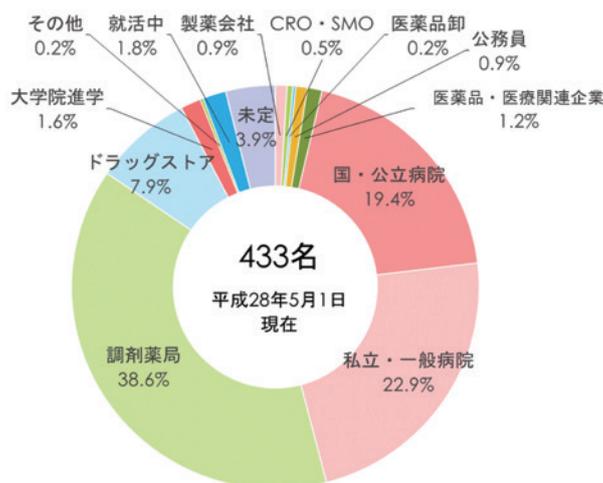


図1 薬学部第1期生～第4期生の就職・進学状況（業種別）

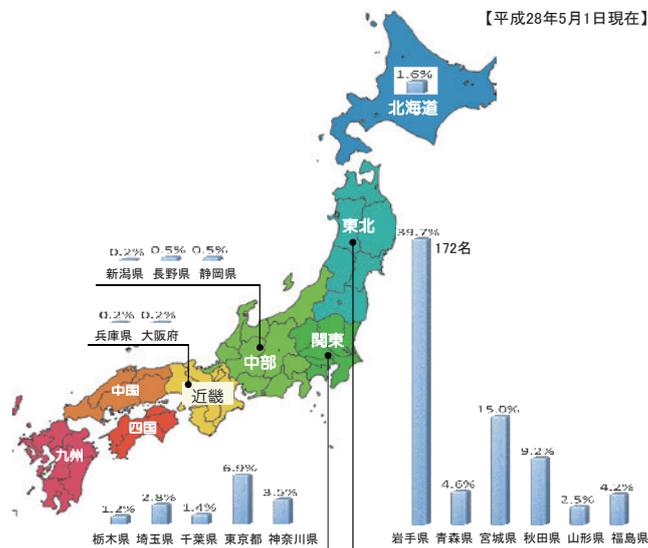


図2 薬学部第1期生～第4期生の就職・進学状況（地域別）

2. 就職活動に変化

本学は他大学に比べて薬局よりも病院へ就職する学生が多いのが大きな特徴でした。開設当初、医学部や病院のある大学の薬学部に魅力を感じて本学を選んだ学生が多かったこともあり、実際に本学附属病院や岩手県医療局をはじめ、東北の国立大学附属病院や首都圏の私立大学附属病院、更に出身地の各県立病院や市立総合病院などに、卒業生の多くは志を持って巣立って行きました。

ところが、今春の卒業生は病院と薬局の割合が逆転しました。実務実習等を通じて、地域医療を支える「かかりつけ薬局」の意義に気づく学生が増えたことも一因ですが、それ以外に心配な2つの理由が考えられます。

一つ目は奨学金の返済です。大学生の2人に1人が総額で平均300万円の奨学金を受給している中で、私立大学の薬学部は学費も高額であることから、1,000万円を超える借金（貸与金）を抱えて卒業する学生も少なくありません。奨学金返済を考え、入学当初は病院を希望していたのに、新卒者の給与が病院よりも高いドラッグストアや調剤薬局を最終的に選択する学生が増えています。

二つ目は、国試後就活の増加です。超売り手市場を背景に、内定を取得するのは決して難しくないのでありますが、本学の多くの学生にとって、就活よりも大変なハードルとして待ち受けているのが「卒業」そして「国家試験合格」です。そのハードルをクリアできなかった場合、病院では「内定取消」となりますが、調剤薬局やドラッグストアでは、大抵は資格を得るまで「内定継続」「内定保留」という形にさせていただけます。成績が不安な学生は最初から「国試後就活」と決めています。国試後に、結果を自己採点し合格圏と分かってから動いても就職できるのです。

ただ、キャリア支援センターとしては、基本的には「国試後就活」をお勧めしません。そもそも、自分の職業人生のスタートを十分に検討することは、大学生に必要な大切なことです。「国試後就活」は企業とのミスマッチ、エリアや職種の希望不可、新人研修の省略、正規採用の遅れ等、数々のデメリットもあります。また、内定の有無が国家試験に向けてのモチベーションにも影響しており、ぜひ内定を取って勉強に専念して欲しいものです。



矢巾キャンパスで行われた企業研究セミナー

3. 転職や離職について

「七五三現象」という言葉があります。新卒就職者のうち、中卒者の7割、高卒者の5割、大卒者の3割が卒業後3年以内に離職する現象を指しています。学生へのキャリアガイダンスでは、『何かのプロになるためには、最初は最低でも10,000時間働いてください。』という話をしておりますが、本学卒業生もすでに数十名が転職・退職しています。早期離職は、本人と採用側の双方にとって実りがなく、また不用意な転職の繰り返しはマイナスの

キャリアととられかねないことも現実です。もちろん、ライフイベントに伴う離職に加え、「薬局に勤めた経験から、行政を目指したくなった」「新卒時に力が及ばなかった自衛官の試験に捲土重来挑戦し、夢を叶えた」など、前向きな転職理由も聞こえてきます。今後、キャリア支援センターでは、卒業生を対象とした追跡調査や転職離職に関するアンケートを実施し、状況を把握していく計画です。

4. 薬剤師の求人動向

本学への薬剤師の求人は毎年900件以上あります。病棟薬剤業務の加算により、ここ数年、病院は病棟薬剤師を増やすべく、高い採用意欲を見せていました。低迷していた国家試験合格率も第101回（H28.2）は比較的高かったため、都市部医療圏の薬剤師は充足しつつあります。大規模病院では、採用予定者数が2ケタから1ケタになり、その後は欠員補充だけという日が来るかもしれません。

大量採用してきた大手調剤薬局からは、東北各県においても勤務地として都市部に希望が集中す

るため、希望どおりの店舗に配属するのが難しくなってきたという声が聞かれます。一方で、アクセスが悪い地域や被災地・過疎地は、依然として人材確保が難しく地域偏在が顕著になっています。

医薬分業率が70%（日本薬剤師会：平成27年度保険調剤の動向）に達した今、薬局は飽和状態と見る向きもありますが、大手ドラッグストアや調剤薬局チェーンは、M&A（合併・買収）、異業種との連携等で出店を続けています。

5. 今後の展望

薬学部の歴史はまだ始まったばかりですが、1万人に近い会員を誇る本学の同窓会組織（圭陵会）が、薬学部卒業生を含む後輩たちを温かく見守ってくださることは心強い限りです。長きにわたり「誠の医療人」養成に力を尽くしてきた本学への信頼と期待が、高い求人件数につながっているものと思います。臨床を中心に十分な医療人教育を受けた薬の専門家として、多くの卒業生が地域医療の最前線で生き生きと活躍することを願ってやみません。

創立120周年を迎える来年は看護学部が設置され、医療系総合大学として新たな一歩を踏み出します。看護系も求人は好調と伺っておりますが、看護学生のキャリア支援につきましては未知の世界です。皆様のご協力・ご指導を仰ぎながら、一

人ひとりの学生が「なりたい自分」に近づける会社や病院へ就職できるよう、取り組んでいきたいと考えています。

（文責：キャリア支援センター長 大橋綾子、キャリア支援センター事務室長 菅原良子）

幅広い職域で活躍

医療 医療制度、診療報酬との関連

産業（医薬品創薬、化粧品、食品、科学産業など）

研究者、SMO、CRO、生産・品質保証、薬事

中毒医療への貢献 分析技術者、バイオ関連研究者

在宅医療への積極的関与 保険薬剤師

社会情勢、環境の変化—社会の変化に対応して機能を拡大

環境問題、食の安全

行政 地方、国

- 高度な専門教育を受け、健康から環境まで専門性を持つ
- 国家が認定する資格
- 法律その他により、権限、責任、職業倫理が確立

薬剤師の職能の将来



「キャリア支援センター」

キャリア支援センターでは、学生の皆さんが専門性を発揮できる職場で活躍できるよう、就職活動の流れに沿ったガイダンスやセミナーを開催し、準備段階から内定取得後まで支援・助言を行っています。

また、希望者には卒業後も相談に応じています。

薬剤師の求人票も随時受け付けておりますので、お気軽にお問い合わせください。

- ・ 岩手医科大学矢巾キャンパス東研究棟 1階
- ・ 内線：5367、5366
- ・ FAX：019-698-1835
- ・ E-mail：career@j.iwate-med.ac.jp

木の花会講演会が行われました

8月31日（水）、歯学部4階講堂において、木の花会（本学附属病院看護師の互助会）主催の講演会が行われ、今年4月に発生した熊本地震での活動について報告がありました。

講演では、「DMAT・DPATの活動と看護師の役割―熊本地震における活動から―」と題して、救急センターの佐々木美里看護師と中3階の野村慎看護師が、災害派遣医療チーム（DMAT）と災害派遣精神医療チーム（DPAT）の視点から活動内容を振り返り、被災地支援活動から得た経験や学びを通じて、看護師としてできることや今後の課題について発表を行いました。

基幹災害医療拠点病院である本学附属病院において、今後も起こり得る大規模災害時に専門性を活かして活躍する看護職には大きな期待が寄せられます。



佐々木美里 看護師



野村慎 看護師

第59回岩手恵眼会総会が行われました

9月24日（土）、歯学部4階講堂にて、岩手医科大学眼病銀行登録者の会である第59回岩手恵眼会総会が行われ、岩手恵眼会の明戸均 会長をはじめ、岩手医大眼病銀行総裁の祖父江憲治 学長ら約140名が出席しました。

総会では、献眼物故者に黙祷を捧げたほか、口腔医学講座予防歯科学分野 岸光男 教授による「被災地におけるお口の健康の復興」と題された講演会が行われました。



秋篠宮同妃両殿下が災害時地域医療支援教育センターをご視察されました

第71回国民体育大会「希望郷いわて国体」が開催されたことに伴い、閉会式にご臨席されるためご来県された秋篠宮殿下と同妃殿下が、閉会式前日の10月10日（月）に本学災害時地域医療支援教育センターをご視察されました。

当日は眞瀬センター長を始め、小川理事長、祖父江学長、高橋矢巾町長、廣田矢巾町議会議長のお出迎えの下、センターの設立経緯や取り組みについて眞瀬センター長がご説明を行いました。

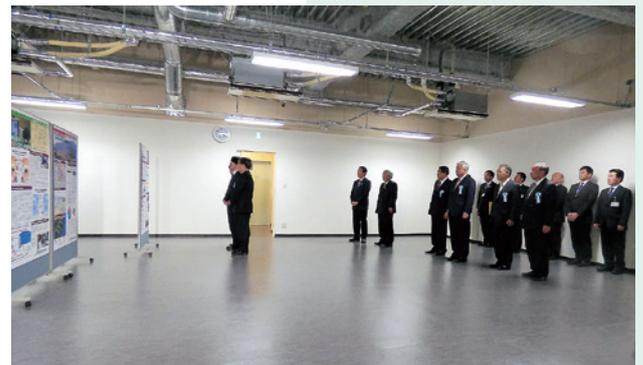
両殿下からはセンター建物の特徴や、研修会を受講する方々の職種などについてご質問があり、また、国内の大学では唯一、本学しか整備していない災害シミュレーション室を非常に興味深く設備の隅々までご覧になり、がれきの下の医療の訓練方法などについてもご質問をされました。

また、お出迎えの際に小川理事長から殿下に、東日本大震災以降、頻りに渡り本県にお越しいただき県民にとって大きな心の支えになっていること、大震災が発災した年の秋の園遊会にご招待いただきお声を掛けていただいたことへの御礼を述べられ（大学報第422号2011年11月号）、お帰りの際には殿下から小川理事長に新病院の竣工・稼働時期についてご質問がありました。妃殿下からは職員に向け、「また災害が起きた際はよろしく願いますね。」とのお言葉も頂戴しております。

爽やかな秋晴れではありましたが肌寒い気温の中でも、殿下、妃殿下はお車の窓を開けられ矢巾キャンパス沿道に集まった約200名の矢巾町民に手を振っていらっしゃいました。



眞瀬センター長の説明をお聞きになる秋篠宮殿下と同妃殿下



説明会場の様子

創立120周年記念イベント「健康フェス2016 ～いきいき 元気 健康家族～」が行われました

9月10日(土)、矢巾キャンパスにおいて、創立120周年記念イベント「健康フェス2016 ～いきいき 元気 健康家族～」が行われました。当日は晴天にも恵まれ、約1,500名の皆様にご来場いただき、大盛会のうちに終了しました。関係者の皆様には心より御礼申し上げます。当日のイベントの一コマをお届けします。



ウェルカムアーチ



キャンパスモール



受付



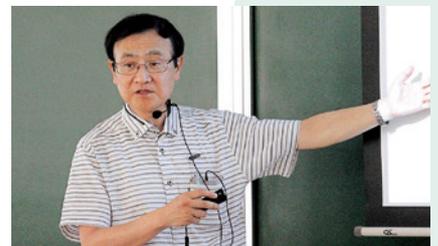
公開講座

「これだけは知っておきたい認知症の話」
内科学講座 神経内科・老年科分野 教授 寺山靖夫



公開講座

「歯科治療はこわくない、リラックス外来」
口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野 教授 佐藤健一



公開講座

「健康に過ごすための科学」
神経科学講座 教授 駒野宏人



公開講座

「ストレスとの上手なつきあい方」
人間科学科心理学・行動科学分野 助教 藤澤美穂



乳がん予防啓発講演会

「知っ得、なっ得、乳がんの“いろは”」
司会：腫瘍センター長・腫瘍内科学科 教授 伊藤薫樹
講師：外科学講座 助教 小松英明



ドクターヘリ基地見学
〔救急センター〕



CCDカメラによる口内観察
〔歯科衛生部〕



保育指導（沐浴指導、児心音の聴取）
〔看護部〕



あなたもできる!!「救命救急とAED講習会」
〔看護部〕



ヘルスチェック・健康・おくすり相談コーナー
〔中央臨床検査部・健康管理センター・歯学部・薬剤部〕



歯科材料のいろいろ
ワックス模型の制作体験&プレゼント
〔歯科技工部〕



やってみよう!認知症予防体操
MCIテスト、視覚性記憶ゲーム
〔看護部〕



あなたの目のこと、考えてみませんか？
衛生検査部によるポスター展示、目の検査ほか



体の中をのぞいてみよう！
3D画像の展示
〔中央放射線部〕



おくすり教室
「くすり」をお茶で飲むのは大丈夫？
〔薬学部〕



手洗いの大切さを学ぼう
〔医療安全管理部〕



地産地消で美味しく減塩
減塩料理の試食・減塩調理のデモほか
〔栄養部〕



太極拳・カンフー～体験！体幹！太極拳！～
講演会・演舞披露・体験ほか
講師：立見政信岩手県武術太極拳連盟会長



ヨガ体験
講師：神経科学講座 教授 駒野宏人



産直販売コーナー
矢巾町の農産物



図書館企画イベント Library+
「どんなお仕事？医療ソーシャルワーカー」
講師：医療福祉相談室 室長 青木慎也



松ぼっくりアイス販売



もちまき大会



薬用植物園案内
〔薬学部、東洋医学研究会〕



釜石市出身のシンガーソングライター
あんべ光俊氏によるスペシャルライブ



さんざ踊り部



学生会による健康〇Xクイズ2016

岩手医科大学募金状況報告

【創立120周年記念事業募金】

平成26年6月から始まりました岩手医科大学創立120周年記念事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今回は第12回目の御芳名紹介です。(平成28年7月1日～平成28年8月31日)

※御芳名及び寄付金額は、広報を希望されない方は掲載しておりません。

●法人・団体等 (24件)

| | |
|--------------|----------------------------------|
| <20,000,000> | 株式会社 こずかたサービス (岩手県盛岡市) |
| <10,000,000> | 株式会社 アキヤマ (岩手県二戸郡) |
| <5,000,000> | 医療法人社団 恵仁会 (岩手県盛岡市) |
| <2,000,000> | 社会医療法人 行岡医学研究会 (大阪府大阪市) |
| <1,000,000> | 圭陵会 北海道道央支部 (北海道札幌市) |
| <500,000> | 医療法人 弘生会 本庄内科病院 (熊本県熊本市) |
| | 医療法人 豊知会 たむら内科クリニック (秋田県北秋田市) |
| | 医療法人 明生会 小坂町診療所 (秋田県鹿角郡) |
| | 医療法人社団 つばさ会 (北海道札幌市) |
| <200,000> | 医療法人社団 うえはら耳鼻咽喉科クリニック (北海道釧路市) |
| <120,000> | 医療法人社団 仲鈴会 (宮城県仙台市) |
| <100,000> | 株式会社 鎌田鋳金工業 (岩手県花巻市) |
| | 医療法人社団 平田医院 (新潟県上越市) |
| | 医療法人社団 春陽堂 師井医院 (熊本県熊本市) |
| | 医療法人 宣誠会 (福島県郡山市) |
| | 医療法人社団 新生会 佐藤病院 (福島県会津若松市) |
| | 有限会社 メディカルアシスト (青森県八戸市) |
| | 医療法人 小沢眼科内科病院 (茨城県水戸市) |
| <御芳名のみ掲載> | 医療法人 主恩会 東部整形外科 (福島県郡山市) |
| | 医療法人社団 安藤内科医院 (東京都江戸川区) |
| | 医療法人 清香会 さいとう耳鼻咽喉科医院 (岩手県盛岡市) |
| | 医療法人社団 いし胃腸科内科医院 (北海道札幌市) |
| | 圭陵会 広島県支部 (広島県広島市) |
| | 医療法人社団 石史山会 札幌スポーツクリニック (北海道札幌市) |

(順不同、敬称略)

●個人 (190件)

| | | | | | |
|-------------|--------------|-------------|-------------|-------------|--------------|
| <3,000,000> | 石田 茂登男 (医23) | <100,000> | 能戸 清 (医1) | 曾谷村 泰弘 (父母) | 網谷 兆康 (医50) |
| | 上里 忠司 (医23) | 金 一 (医44) | 師井 良知 (父母) | 市成 秀人 (父母) | 市成 周郎 (歯18) |
| <1,000,000> | 足立 学 (父母) | 小野寺 勲 (役員) | 海老原 至 (父母) | 亀山 和永 (父母) | 鎌田 芳男 (父母) |
| | 星 兵仁 (医18) | 大泉 早苗 (医11) | 遠藤 直樹 (医12) | 藤田 芳男 (父母) | 土屋 眞 (医5) |
| | 西島 康之 (医9) | 荒川 明 (父母) | 和田 謙郎 (他66) | 土屋 眞 (医5) | 遠藤 芳彦 (医36) |
| | 吉田 和夫 (父母) | 藤森 正記 (医30) | 阿部 豪友 (父母) | 三上 藤雄 (顧問) | 主濱 雅夫 (父母) |
| | 中村 豊 (教職員) | 岡崎 裕子 (医28) | 三上 藤雄 (顧問) | 藤崎 宣吉 (専20) | 山口 剛史 (医65) |
| | 橋本 真生 (医38) | 川村 秀司 (医35) | <30,000> | 池田 徹 (歯26) | 杉 直晃 (父母) |
| | 秋山 剛広 (大学院生) | 小林 信雄 (父母) | 池田 徹 (歯26) | 満川 元貞 (医45) | 石川 一郎 (医49) |
| | 関 英政 (医31) | 小松 眞史 (父母) | 満川 元貞 (医45) | 李 民男 (父母) | 七戸 眞 (医40) |
| | 斎藤 和好 (名誉教授) | 遠藤 義忠 (医14) | 李 民男 (父母) | 林 竹志 (父母) | 井上 昂也 (歯46) |
| | 江畑 隆夫 (専18) | 山下 典生 (教職員) | 林 竹志 (父母) | <20,000> | 渡辺 正乃 (父母) |
| | 勝又 厚 (医14) | 吉住 眞 (医20) | <20,000> | 畠澤 秀昭 (父母) | <89> |
| | 石井 一彦 (父母) | 原田 潤太 (医23) | 渡部 司 (父母) | 渡部 司 (父母) | 前田 光義 (歯7) |
| | 武居 一康 (父母) | 金子 勝 (医27) | <10,000> | 佐藤 春彦 (父母) | <御芳名のみ掲載> |
| <700,000> | 杉山 浩隆 (医28) | 太田 広美 (歯23) | 佐藤 春彦 (父母) | 高木 一正 (父母) | 遠藤 厚 (顧問) |
| <500,000> | 高山 和夫 (名誉教授) | 日野 忠臣 (医7) | 高木 一正 (父母) | 佐藤 誠之 (医8) | 鳥羽 晃子 (医37) |
| <300,000> | 服部 而立 (専13) | 本間 謙一 (学生) | 佐藤 誠之 (医8) | 菅原 清孝 (父母) | 千田 勝一 (教職員) |
| | 植原 元晴 (父母) | 下沖 収 (他111) | 菅原 清孝 (父母) | 小野 清毅 (父母) | 前田 厚志 (父母) |
| | 盛山 正仁 (父母) | 塚原 充秋 (医21) | 小野 清毅 (父母) | 佐藤 隆 (父母) | 佐々木 真理 (教職員) |
| | 本橋 弘行 (医7) | 吉田 徹 (他112) | 佐藤 隆 (父母) | 勝山 信男 (医8) | 吉田 研二 (教職員) |
| | | 野田 康信 (父母) | 勝山 信男 (医8) | 山下 武志 (医58) | 國本 えみ子 (医25) |
| | | <50,000> | 山下 武志 (医58) | 井上 浩司 (父母) | 羽澤 みや子 (元職員) |
| | | 松村 猛 (歯14) | 井上 浩司 (父母) | | 下田 靖行 (父母) |

| | | | |
|---------------|--------------|--------------|--------------|
| 塚原 央之 (医52) | 千田 永 (父母) | 安藤 俊行 (父母) | 山口 晃史 (歯27) |
| 三浦 史彦 (医15) | 戸田 和則 (父母) | 水城 まさみ (医23) | 山口 陽子 (歯36) |
| 小野寺 健一 (医25) | 千葉 昭夫 (父母) | 伊藤 浩司 (医41) | 後藤 淑子 (父母) |
| 池田 敏 (父母) | 川戸 多喜子 (元職員) | 木村 英敏 (歯11) | 成田 俊介 (医34) |
| 白岩 和香苗 (医49) | 遠藤 秀彦 (他102) | 木村 緑 (歯13) | 荻原 裕之 (父母) |
| 小野 洋 (父母) | 菅井 有 (教職員) | 山崎 貴一 (父母) | 鈴木 ゆき子 (歯14) |
| 佐藤 忠一 (医3) | 山口 一彦 (医17) | 石塚 華奈 (医41) | 千葉 泰久 (医10) |
| 菅野 耕毅 (役員) | 斎 隆 (医17) | 白岩 道夫 (医8) | 本田 孝行 (歯9) |
| 諏訪部 章 (教職員) | 佐藤 聡 (父母) | 千田 雅之 (父母) | 宮本 孝行 (医45) |
| 柳田 英夫 (医9) | 伊崎 誠一 (医22) | 曾根 美雪 (医37) | 小山 昌子 (歯16) |
| 小野寺 けい子 (医24) | 笹森 典雄 (専19) | 後藤 尚 (医20) | 須藤 英子 (父母) |
| 三上 一治 (医29) | 金子 康治 (医24) | 菊池 哲也 (父母) | 武田 正 (父母) |
| 大沼 天 (父母) | 中村 一雄 (他79) | 榊 政光 (父母) | 最上 毅 (父母) |
| 古山 和道 (教職員) | 桂 泰鴻 (医21) | 増戸 尚 (医20) | 佐藤 健一 (父母) |
| 小笠原 真弓 (医32) | 太田 直喜 (父母) | 根本 厚子 (医30) | 船越 真哉子 (父母) |
| 小笠原 眞 (医31) | 久保 直彦 (医30) | 黒澤 照男 (医30) | 高橋 里志 (父母) |
| 三浦 孝一 (専17) | 後藤 淑子 (父母) | 太田 純基 (父母) | 藤島 幹彦 (他86) |
| 山口 智 (医36) | 坂田 憲治 (医46) | 新 清 (一般) | 上野 明彦 (父母) |
| 山口 旭 (父母) | 平山 脩 (歯1) | 向井田 春海 (医35) | 齋藤 隆夫 (父母) |
| 見城 正剛 (父母) | 竹本 恒人 (父母) | 齋藤 正信 (医24) | 無江 昭子 (医12) |
| 中村 互 (父母) | 大越 康充 (医32) | 箱崎 文志郎 (歯2) | 堅村 信介 (父母) |
| 古町 克郎 (教職員) | | | (順不同、敬称略) |
| 佐藤 清行 (父母) | | | |
| 佐藤 弘房 (医30) | | | |
| 伊藤 規雄 (父母) | | | |
| 佐藤 方信 (名誉教授) | | | |
| 佐藤 康満 (父母) | | | |
| 佐藤 朗 (医30) | | | |
| 高木 亮 (医49) | | | |
| 許山 厚 (医23) | | | |
| 川波 丈敏 (父母) | | | |
| 吉田 彰英 (歯25) | | | |
| 小島 和行 (父母) | | | |
| 小山 薫 (教職員) | | | |
| 木暮 淳志 (父母) | | | |

| 区分 | 申込件数 | 寄付金額 (円) |
|---------|------|-------------|
| 圭 陵 会 | 438 | 310,570,089 |
| 在学生ご父母 | 320 | 163,895,000 |
| 役員・名誉教授 | 41 | 42,690,000 |
| 教 職 員 | 96 | 17,017,000 |
| 一 般 | 39 | 23,100,000 |
| 法 人・団 体 | 119 | 429,245,000 |
| 合 計 | 1053 | 986,517,089 |

(平成 28 年 8 月 31 日現在)

省エネ推進委員会だより

「夏季の節電活動」の結果報告について

職員の皆様方におかれましては、日頃より省エネ活動にご協力をいただきまして誠にありがとうございます。今夏も「夏季の節電活動」を実践致しましたが、期間内における電力使用量の集計が纏まりましたので結果についてお知らせ致します。

「夏季の節電活動」概要

【実践期間】

平成28年6月1日～8月31日まで(クールビズは9月30日まで)

【節電目標】

実践期間内の消費電力量(合計)の前年度比1%の削減

【実践項目】

冷房温度 28℃設定(病棟・診察室等は弱冷房の励行)、不要照明の消灯、待機電力の削減、クールビズ活動

まとめと考察

今夏は、例年より6月～7月の外気温が低く推移したため、冷房の稼働時間が減少し相対的にほぼ全ての施設の電力消費量が減少、特に花巻温泉病院については4階病棟を閉鎖したこともあり、期間を通して大幅に減少しました。この結果、施設の合計量は目標を超える2%の削減を達成しました。

今夏の結果を見ていただければわかると思いますが、夏季における電力使用量の多くは冷房の稼働によるもので、外気温によって大きく変動します。無理のない範囲で冷房設定温度を緩和する、使用していない部屋の冷房停止や照明の消灯など、実践が可能な範囲で結構ですので、節電にご協力をお願い致します。

施設別電力使用量集計 (単位: 千 Kwh)

| 施設名 | 期間の合計 | (前年度比) |
|-------|---------|----------|
| 内 丸 | 5,379.2 | (-1.3%) |
| 矢 巾 | 2,580.3 | (-2.6%) |
| 本 町 | 56.4 | (-10.4%) |
| 花 巻 | 161.1 | (-15.9%) |
| P E T | 140.4 | (+8.8%) |
| 医療専 | 17.3 | (-8.1%) |
| 施設合計 | 8,334.7 | (-2.0%) |

電力使用量の推移 (月毎の施設合計量)





解剖学講座発生生物・再生医学分野 増田智幸研究員、大津圭史講師、原田英光教授が硬組織再生生物学会賞を受賞しました

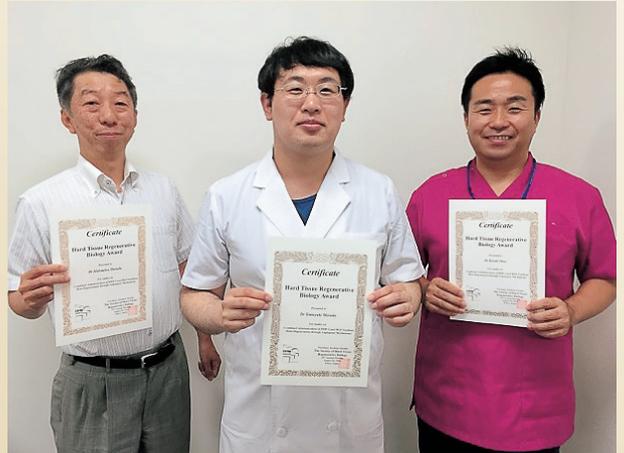
この度、硬組織再生生物学会において硬組織再生生物学会賞を受賞し、第25回 硬組織再生生物学会学術大会・総会（平成28年8月19日、20日 日本大学歯学部で開催）において、学会賞受賞記念講演を行いました。

受賞した論文の題名は「Combined Administration of BMP-2 and HGF Facilitate Bone Regeneration through Angiogenic Mechanisms (BMP-2 と HGF の同時投与は、血管新生により骨再生を促進する)」です。

本研究において我々は、BMP-2とHGFという2種類のサイトカインを用い、血管を早期に誘導することで骨再生を促進することに成功しました。

このことは、骨欠損の治癒期間を大幅に短縮できる可能性を示す有用な知見であると評価されました。今後もこの研究を更に進め、医療の発展に向け研鑽していきたいと思っています。受賞にあたり、ご指導・ご協力いただいた方々に感謝申し上げます。

（文責：解剖学講座発生生物・再生医学分野 増田智幸）



病理学講座病態解析学分野 三上俊成 准教授が第18回国際口腔病理学会で”Best Relevance”を受賞しました

9月8日～11日にインドのChennaiで開催された国際口腔病理学会(IAOP)の学術集会で”Best Relevance”を受賞しました。演題は”Heterogeneity of ameloblastoma on Cell Lines and Tissue Specimen from a Single Patient”です。最近、種々の病変の診断や治療で遺伝子変異の解析が不可欠になってきました。しかし、口腔領域に特有な病変である歯原性腫瘍についてのこの方面での検索はほとんどなされていません。今回は本分野で樹立したエナメル上皮腫株化細胞(HAM1,2,3)と検体組織について遺伝子解析とタンパク発現解析を行い、細胞特性を検討しました。同一患者の腫瘍から株化された細胞でも上皮系ならびに間葉系のタンパク発現は異なりました。また、検体組織と比較しながら株化細胞におけるmRNAの発現パターンの検討結果も細胞株間で異なっていました。しかし、遺伝子ではBRAF V600E変異がすべての細胞で検出されました。したがって、エナメル上皮腫の特定の表現型を示す各HAM細胞株は、発症機序の解明や治療法の開発研究に有用であると考えられました。現在、歯原性腫瘍の遺伝子解析に関して内外の機関との研究プロジェクトを立ち上げ、動き始めたところです。写真は国外の共同研究者のお一人であるウルグアイ共和国大学のRonell Bologna-Molina教授がIAOPから帰国する途中で当分野に立ち寄られた際のものであります。

（文責：病理学講座病態解析学分野 武田泰典）



大学報原稿募集

岩手医科大学報は、教職員皆様のコミュニケーションの場として発行を重ねていますが、さらなる教職員同士の“活潑な意見交換の場”として原稿を募集しています。

岩手医科大学に対する意見や提言、日々の業務で感じること、サークル紹介、学報への感想など、様々な内容をお寄せください。（表紙写真も募集しています）

また、特集してほしいテーマや、各コーナー（「表彰の栄誉」「トピックス」「教職員レター」など）への掲載依頼などもお待ちしております。事務局までご連絡ください。

連絡先

大学報事務局（企画部企画調整課）
内線 7022
kikaku@j.iwate-med.ac.jp

新任教授の紹介

平成 28 年 9 月 1 日就任

形成外科学講座

櫻庭 実 (さくらばみのる)

昭和 41 年 1 月 9 日生
青森県弘前市出身



研究テーマ

- ・形成外科学、頭頸部再建、乳房再建、がんの難治性創傷、マイクロサージャリー

主な著書論文

- ・腓骨皮弁による下顎再建例の術後機能評価 (Microsurgery. 35:485-488,2015)
- ・頭頸部再建の最近の進歩 (International Journal of Clinical Oncology.18:561-565,2013)
- ・肝胆膵悪性腫瘍切除後の肝動脈再建 (European Journal of Surgical Oncology.38:580-585,2012)

趣味

マラソン、スキューバダイビング、国際医療ボランティア

教職員への自己PR

平成 28 年 9 月 1 日付けで形成外科講座内教授を拝命いたしました。これまで 19 年間にわたり国立がん研究センターでがん医療に携わってきましたが、これからはその経験を生かし本学の診療・教育・研究に貢献できるよう努力していきたいと考えています。形成外科は診療範囲が広く各診療科との緊密な連携がとても重要です。「どんな傷でも治します。」をモットーにしておりますので、いつでも患者さんをご紹介いただければ馳せ参じます。どうぞよろしく願いいたします。

経歴

平成 2 年 弘前大学医学部卒業
平成 6 年 弘前大学大学院修了、山形県立中央病院後期研修医
平成 9 年 国立がんセンター東病院がん専門修練医
平成 11 年 国立がんセンター東病院常勤医師
平成 15 年 Gent 大学 (ベルギー) 形成外科、Memorial Sloan-Kettering Cancer Center (米国) 留学
平成 18 年 国立がんセンター東病院形成外科医長
平成 18 年 岡山大学形成外科臨床教授
平成 22 年 国立がん研究センター東病院形成外科 副科長
平成 24 年 国立がん研究センター東病院形成外科 科長
平成 28 年 9 月 現職

教職員レター

No.67

「鬼剣舞リオデジャネイロ公演」

救急センター 看護師 照井 善貴

南米大陸初のオリンピックが今年の夏にブラジルのリオデジャネイロで開催され、日本でも大いに盛り上がりました。次回 2020 年は日本で東京オリンピックが開催されるため様々なイベントも行われました。その中の 1 つ、Rio 2016 Live Sites 内の「TOHOKU & TOKYO in RIO」というイベントは東京オリンピックの宣伝と東日本大震災、被災地東北の復興の感謝を世界に向け、アピールをするために企画されたものです。東京・東北の伝統的祭りを屋外ライブステージで披露しました。東北からは福島のじゃんがらと岩手の鬼剣舞が選ばれ、鬼柳鬼剣舞の一員として鬼剣舞を披露してきました。

鬼剣舞とは北上市の伝統芸能であり鬼のお面を被り、刀や扇を使い、頭や腰を巧みに動かしながら勇壮に舞う踊り

です。私は鬼剣舞を始め 5 年になります。仕事の合間をみながら北上に帰り練習や公演を行ってきました。今年に入りリオデジャネイロ公演が決まったと話を聞き、私にとって初の海外公演どころか初海外となり、夏休みを利用してリオデジャネイロに行くことが決まりました。



リオデジャネイロまで片道 24 時間かかり、楽しみだった機内食も最後は飽きてしまいました。ブラジルの 8 月は冬でしたが、空気はカラッとし気温も平均 25 度程度あるため過ごしやすい環境でした。ブラジルは治安が悪いとされていましたが、皆陽気で街はお祭り状態でした。虫はほとんどおらず心配していた蚊に刺されることもありませんでした。

イベント会場はとても盛り上がり、鬼剣舞の衣装を着て歩けばまるで大スターで皆写真を撮ってほしいと求めてきました。日本の宣伝と東日本大震災復興の感謝を伝えるため精一杯踊りを舞い、人々と交流をしてきました。初の海外で今までにない有意義で楽しい時間を過ごすことができました。

貴重な海外公演をオリンピック開催中のリオデジャネイロで行うことができとても良い経験となりました。次回は東京オリンピックで踊れるよう、これからも鬼剣舞を続けていきたいと思えます。



シリーズ 職場めぐり

看護部 (血液浄化療法部)

血液浄化療法部は、透析療法や自己免疫疾患に関連した血液浄化療法を行っています。患者数は年々増加し、昨年度は4500件の治療実績となっています。周術期や急性期の患者、循環器疾患を合併している患者が多く、治療中は病態の変化を見極める細やかな観察と危機管理を含めた専門性の高い看護の提供を求められます。また、小児を含めた6名の外来維持透析においては、QOLの維持・向上に向け生活指導を行っています。さらに、外来・病棟と連携しながら、腎外来通院患者へ腎代替療法（血液・腹膜透析、腎移植）の治療選択について、患者と面談を行い患者自身が納得して選択できるように支援しています。腹膜透析患者も増加し、医師の指導の下に腹膜透析（PD）専門指導看護師が中心となりPD外来として活動しています。今後も、患者・家族の訴えを傾聴

しニーズに応えられるよう、多職種と協働しながら専門性の高い看護の提供に努めていきたいと思いを。
(看護師 加藤里絵)



岩手県こころのケアセンター (大船渡地域センター)

大船渡地域こころのケアセンターは、大船渡保健所管内（大船渡市・陸前高田市・住田町）の地域を担当しており、酒井センター長、大塚副センター長の指揮系統に基づいて日々の活動を行っております。

当センターは大船渡地区合同庁舎の一室と盛支所の2か所で業務を行い、スタッフは専門職7名・事務職2名の計9名で構成されております。中央センターや他機関連携しながら、被災地での相談室開催・訪問活動等の相談支援、地域住民や従事者を対象とした普及啓発活動・人材育成等の事業に取り組んでおります。

同管内は、元々医師不足の問題を抱えた地域であり、高齢者の独居も多く、震災後さらにそれらが加速しているため、震災から5年半が経過した今では心身の健康面や経済状況を含めた生活面など様々な問題が複合化されている住民が多く見られます。当センター

は今後も地域の住民や支援者に寄り添い丁寧な活動を心がけて行きたいと思いを。
(主任 吉田聡子)



表紙写真の解説

表紙写真の1号館は、火災を憂慮していた三田俊次郎先生の強い意向により、岩手病院診療棟として、鉄筋コンクリート造3階建(約321坪、1,060㎡) で建てられました(大正15(1926)年10月24日竣工)。その後、幾度かの改修工事等を経ましたが、今なお当時の面影を残す歴史的な建築物として、大学関係者のみならず多くの市民の皆様が親しまれています。

設計者の葛西萬司氏は、岩手医学専門学校附属医院(現2号館)や岩手医学専門学校第1校舎(旧3号館、現在は撤去)等も手掛け、本学の草創期を支える大きな力となりました。他にも中央停車場(現東京駅丸の内駅舎)や盛岡銀行本店(現岩手銀行中ノ橋支店旧館)等、明治から昭和にかけての数々の近代建築物に携わり、建築界にその名を刻んでいます。



竣工当時の岩手病院診療棟

編集委員コーナー No.11 大学周辺のお店めぐり ～カイルアキッチン(Kailua Kitchen)～

大学周辺お店めぐりとして今回私がお勧めしたいのは、北ホテルの北隣にある『カイルアキッチン (Kailua Kitchen)』です。

このお店はハワイ好きのオーナーが盛岡にも本格的なハワイ料理のお店を出したい!! という熱い思いから 2014 年 8 月にオープンしました。ハワイ料理の定番といえばやはり『ロコモコ』。多くのお店が日本人の味覚に合わせたものを提供するのに対して、このお店はハワイの味そのままを味わっていただきたいというオーナーのあつ～い思いから作られた『ロコモコ・ハワイアン』と日本人向けにアレンジした『ロコモコ・ジャパニーズ』の 2 種類の味を楽しむことができるのが特徴です。それぞれを味わった人の 7 割くらいは次回も『ハワイアン』を頼むのだとか…。その他にも多くのメニューがありますが、今回シェフからご紹介いただいたのは『OHANA プレート』(写真)。生パスタ、サラダ、スパニッシュオムレット、ヨーグルト、塩パンにドリンク付きのセットで 999 円(税込)です。ランチタイムは 11:45～14:30。夜の部は 17:00～23:00(金曜・土曜は 24:00 まで)。ちなみに、岩手医大には特別にお弁当の配達もしてくれるそうです。「ハワイの話で盛り上がりたい!!」「ハワイ旅行を計画なのでお勧めのスポットを紹介してもらいたい!!」という方はぜひお店に足を運び、オーナーのハワイにかける熱い思いを聞いてみてはいかがでしょうか? ハワイアンミュージックを聴きながらゆったりとした空間でくつろぐことのできるお店です。

(編集委員 米澤裕司)



スポーツ医学講座

麻酔学講座 助教 宮田 美智子

頭痛と漢方

日本人の約12人に1人が慢性的な頭痛に悩まされています。慢性的な頭痛に悩まされている人の中には、いつも鞆の中に薬を入れていて発作の度に服用している人も多いでしょう。しかし、徐々に効果を感じなくなっていたりはいませんか？そんな人は、1度漢方薬を試してみてもはどうでしょうか？

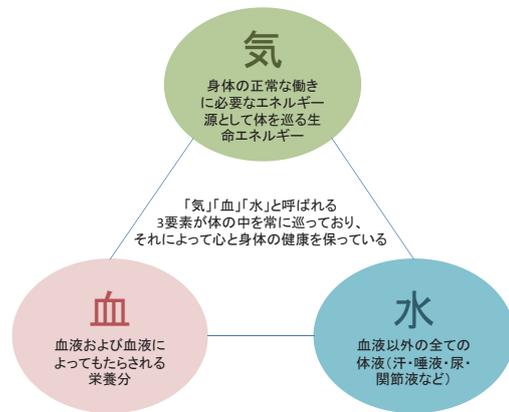
漢方薬と聞くと、口に苦く、長く飲まないとお効かないというイメージを持っている人が多いかもしれません。実は、そうでもない場合もあります。漢方薬は西洋薬と違い、症状だけで薬を処方しません。「証」といわれる本人の体質や体力、症状の現れ方などを総合的に判断して薬を処方します。その「証」に合っている漢方薬なら美味しく感じる場合もあり、種類によっては発作を比較的短時間で治めてくれます。

では、ここからは少し具体的な例を挙げてみます。

「片頭痛」では、呉茱萸湯（ごしゅゆとう）が効くことがあります。呉茱萸湯は予防や体質改善に効果があります。ズキズキする頭痛、頭頂部もしくは側頭部が痛み、吐き気や嘔吐を伴う頭痛がある方で、冷えると頭が痛い人にお勧めです。漢方では、ズキズキする頭痛は「冷え」が「気」「血」「水」の流れをじゃましてしまい、上部（頭）へのこれらの流れが乱れてしまったため生じると考えています。呉茱萸湯は身体の中心であるお腹を温め、「気」や「血」の流れを乱していた「冷え」を取り除くことで、頭痛を鎮める処方です。また胃腸の働きを整え吐き気を鎮める働きもあるため、胃腸が弱い方の頭痛薬としても適しています。「高血圧性頭痛」には、釣藤散（ちょうとうさん）があります。血圧が高めで慢性的な頭痛に悩んでいたりと、些細なことが気になって頭が張る感じがする人や、

特に朝方に頭痛がひどい方に有効であることが多いです。ストレスなどで血圧が上がる人は頭痛の他、目がくらむといった症状を引き起こしますし、また顔が赤くなったり目が血走ったりもします。釣藤散は「気」の上昇を抑えるとともに「気」や「血」の巡りを整えます。「緊張型頭痛」には、葛根湯か五苓散をためしてみるとよいかもしれません。「低気圧性頭痛」には、五苓散が効果的です。天気予報が出来るようなタイプの頭痛の人には、効果があります。「めまいを伴う頭痛」には、半夏白朮天麻湯（はんげびやくじつてんまとう）が効果があることが多いです。

漢方薬で頭痛に効果があるといわれているのは、これ以外にもたくさんありますが、その人の「証」にあった内服をすることで、慢性的な頭痛とサヨナラ出来るかもしれません。



《岩手医科大学報編集委員》

| | |
|-------|--------|
| 小川 彰 | 米澤 裕司 |
| 影山 雄太 | 山尾 寿子 |
| 松政 正俊 | 菊池 初子 |
| 齋野 朝幸 | 佐々木さき子 |
| 成田 欣弥 | 佐々木忠司 |
| 佐藤 仁 | 熊谷 佑子 |
| 藤本 康之 | 畠山 正充 |
| 白石 博久 | 菅原 侑子 |
| 藤澤 美穂 | 武藤千恵子 |
| | 高橋 慶 |

編集後記

秋も深まってきましたね。この季節、公園を散歩していると面白いものに出会います。たとえば森のエビフライ。リスが齧った松ぼっくりはエビフライそっくりな形をしているのです。盛岡市内でも簡単に見つけることができますよ。

落ち葉をかき分けしていると思わぬ発見をすることも。先日は何気なく拾ったドンダリに小さなビー玉がはめ込まれていました。きっと、誰かのポケットからこぼれた宝物なのでしょうね。

（編集委員 影山雄太）

岩手医科大学報 第481号

発行年月日 平成28年10月31日

発行 学校法人岩手医科大学

編集委員長 小川 彰

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画調整課

盛岡市内丸19-1

TEL. 019-651-5111（内線7023）

FAX. 019-624-1231

E-mail: kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp